

◆ 今週のコメント

- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、6.54(268例)で、先週に比べ増加しています。年齢階級別では、1歳が25.0%(67例)と最も多く、1歳～4歳までが、61.2%(164例)を占めています。病原体定点で採取された検体からは、ノロウイルスの検出が減り、ロタウイルスが検出されてきています。
- ・ 流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は、0.80(33例)で、先週に比べ減少していますが、第4週以降、過去5年平均値を上回る状態が続いています。年齢階級別では、3歳が27.3%(9例)と最も多く、次いで5歳(6例)となっています。
- ・ マラリアの本年初めての報告が1例(女、20歳代)あり、推定感染地域はケニア・ウガンダです。平成14年に4例、平成11～13年、15年、19年に各2例、平成16年、18年に各1例、合計16例の報告があります。推定感染地域は、インドネシア(4件)、ケニア(3件)、インド(2件)の順に多くなっています。
- ・ 麻しんの報告が1例(女、50歳代、修飾麻しん(検査診断例))あり、本年2例目の報告です。平成21年が4例、平成20年が106例です。国が推進する「麻しん排除計画」において、診断の際には可能な限り検査診断を実施することが求められています。「平成21年の麻しんのまとめ」を第6週週報に掲載していますので、御参照ください。

◆ 今週のトピックス: <手足口病>

手足口病の定点当たり報告数は、0.54(22例)で、過去5年平均値を上回る状態が続いています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- ・ 三類:腸管出血性大腸菌感染症(O157 VT型不明) 1例【1月以降の累積報告数 2例】
- ・ 四類:マラリア 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- ・ 四類:レジオネラ症(肺炎型) 1例【1月以降の累積報告数 3例】
- ・ 五類:麻しん(修飾麻しん) 1例【1月以降の累積報告数 2例】

定点報告の主な感染症

(市内内定点数 インフルエンザ定点68、小児科定点41、眼科定点10、基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	6.54	268
	② 水痘	1.05	43
	③ 流行性耳下腺炎	0.80	33
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.73	30
	⑤ 手足口病	0.54	22
眼科	流行性角結膜炎	0.60	6

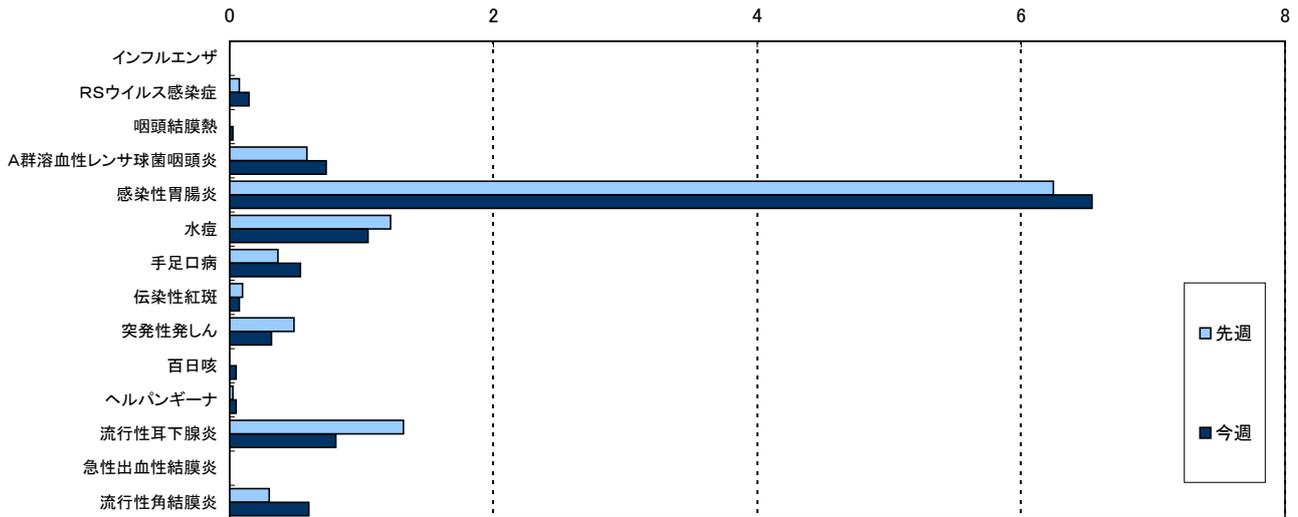
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <手足口病>

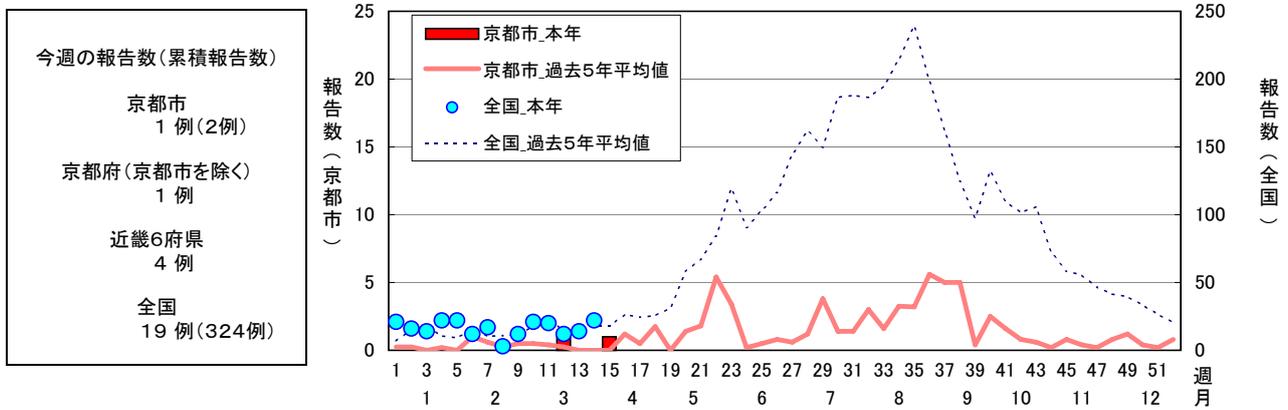
(注) 京都市のデータは、平成22年4月22日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第15週)と先週(第14週)の定点当たり報告数の比較



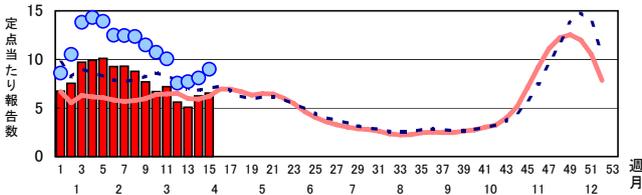
2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移



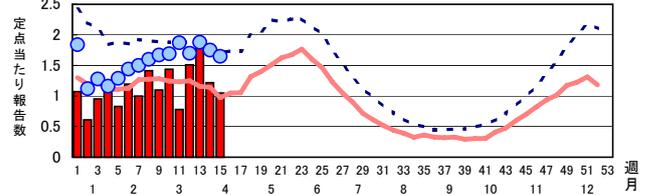
3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

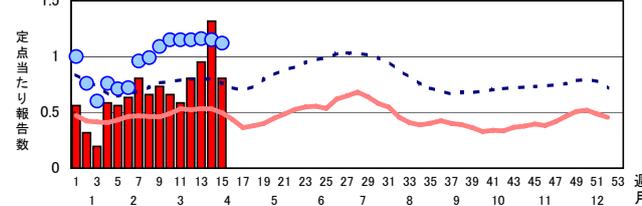
1 感染性胃腸炎



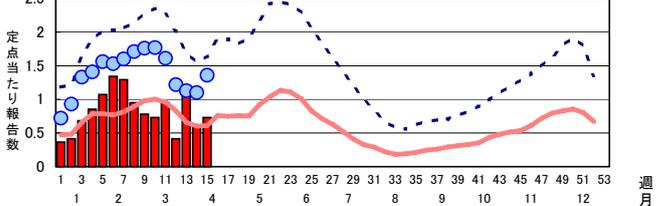
2 水痘



3 流行性耳下腺炎

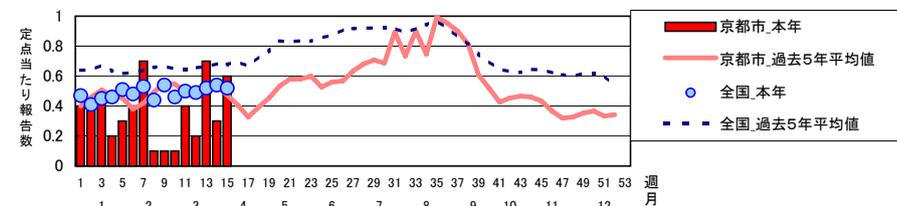


4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



<眼科定点>

流行性角結膜炎



第15週(4月12日～4月18日)トピックス: <手足口病>

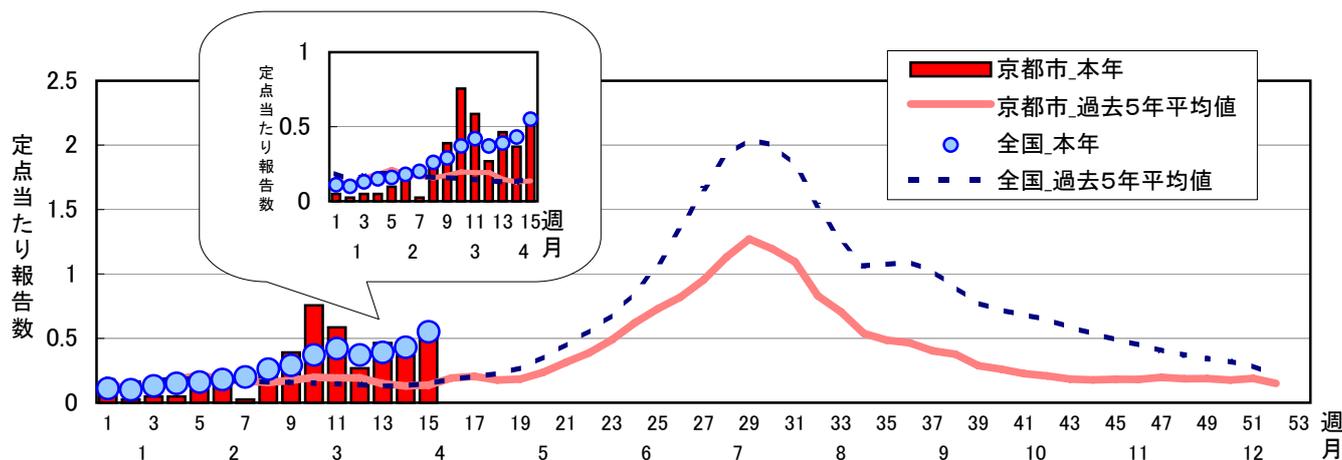
定点当たり報告数は、0.54(22例)で、全国の定点当たり報告数(0.55)と共に、過去5年平均値を上回る状態が続いています。

年齢階級別にみると、2歳、4歳、1歳の順に多くなっています。

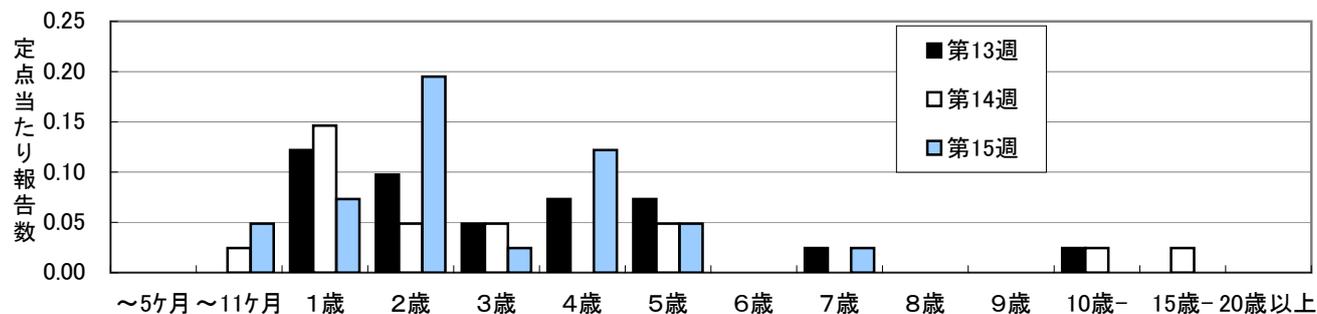
行政区別にみると、11行政区中、8行政区で報告があり、6行政区(上京、中京、山科、右京、伏見、西京)で先週に比べて増加しています。

病原体検出情報によると、中枢神経合併症の発生率が他のウイルスに比べて高いとされるエンテロウイルス71型(EV71)の報告数が、本年、全国で24例(4月23日現在)あります。京都市においても、京都市衛生環境研究所で検査を実施した手足口病の方の検体から、EV71が数例検出されていますので、注意が必要です。

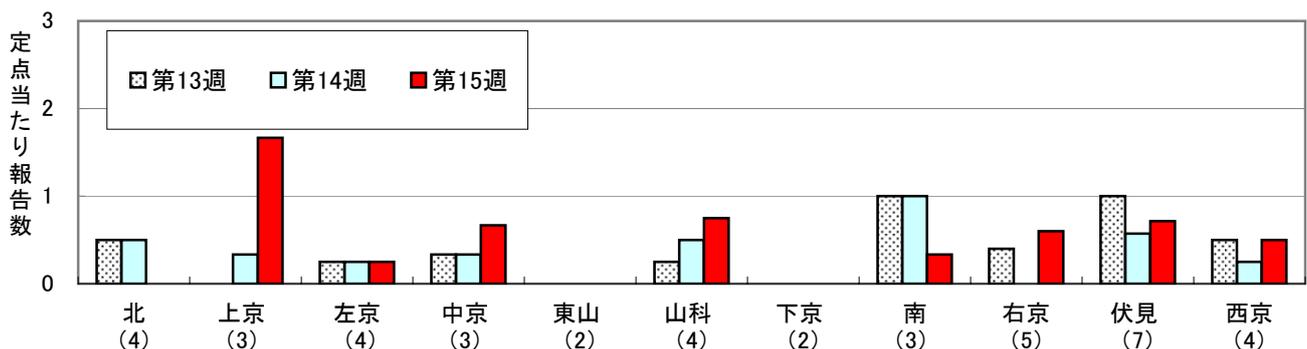
本市及び全国の定点当たり報告数 推移



年齢階級別定点当たり報告数の推移



行政区別定点当たり報告数の推移



()内は、定点医療機関数